

# 驚きと楽しさで、「まち」と共に 歩んできた「高島屋」。

「アイデアあふれる広告宣伝物で振り返る高島屋のユニークな190年。」

No.008



高井 多佳子

たかい・たかこ 専門は日本近代史。京都女子大学・京都精華大学非常勤講師。2009年より高島屋創業家文書の調査・研究を開始。2020年の高島屋史料館リニューアルオープンに携わり、現在、同館研究員。

高島屋は、江戸末期の1831（天保2）年に京都で生まれました。その後、現在に至るまで、いつも時代の先頭を走り、ほかの百貨店にはない驚きや楽しさにあふれる広告や催しなどで話題をふりまいてきました。人々は、最先端の建物を訪れる楽しみ、ちよつと贅沢な商品を買う喜び、家庭ではなかなか味わえない大食堂での時間、そしてユニークな催し物を見る楽しみを体験。高島屋を訪れることは非日常のひとつで、まさに「まち」のエンターテインメント拠点であったのが高島屋です。

1923（大正12）年の関東大震災の際には、いち早く東京へ日用品・必需品を送り安価で販売、人々に寄り添うことが百貨店の指命であると広告しました。昭和期に入ると、「お客様の高島屋」から「皆様の高島屋」へと店舗のキャッチフレーズを変え、百貨店は皆様の娯楽の場とのメッセージを発信し、大阪・南海店、東京・日本橋店を次々と開店。百貨店の誕生に際して、大阪は今竹七郎（1）、東京は岡本一平（2）が広告宣伝を担い、斬新で奇抜な広告宣伝で大いに注目を集め、新時代の百貨店として躍進していきましました。ユニークな催しも次々と開催し、人々の夢を大きくくふくませました。これは当時、高島屋の総支配人であった川勝堅一の言葉『百貨店では、良品廉価奉仕以外に、この街をより愉快に、より賑かに、より繁昌させるために、直接営利を目的とせず国家的社会的見地からこのような催しを企てるのであります・・・』<sup>（3）</sup>を具現化するものでした。

## Exhibition Information -

### 高島屋創業 190 周年記念展 愉快な「まち」をつくる

高島屋史料館企画展示室

3月6日(土)→6月28日(月)

●第Ⅰ部：百貨店、誕生

3月6日(土)→4月26日(月)

●第Ⅱ部：百貨店と「まち」

5月1日(土)→6月28日(月)

イベントは、下記サイトを検索しご覧ください。

「京服版の高島屋」から三都に店舗を構える百貨店となった高島屋は、あらゆるアイデアで人々の楽しみを創り出し、常に新しい話題を発信し続けてきました。そして現在、未来へと、新しい「まちづくり」を進めている高島屋。いつの時代も「まち」と共に歩んできた高島屋の190年を、広告宣伝物と共にたどり、あらためて百貨店の役割をみつめ問い直します。

高島屋史料館

検索

## 高島屋史料館

高島屋東別館3階

開館時間／午前10時～午後5時

休館日／火・水曜日

(4月29日(木・祝)・4月30日(金))

は展示替のため休館)

入館料／無料



6



4



2



5



3



1

今回の展覧会では、アイデアあふれる広告宣伝物を通して「まち」と共に歩んできた高島屋の魅力を再発見します。

ユニークな広告、話題の催しで「まち」を愉快に。

1898（明治31）年に大阪・心斎橋に進出した時には大きなイラストの広告を掲載し、沿線に巨大な帆かけ船の屋外広告を出し話題に。また大正末期には大阪・長堀橋に大建築の店を開店。「お客様の高島屋ができました」高島屋をかわゆがってください」と宣伝。

これからも、新時代の「まち」と共に。

やがて戦後、日本がスピードをあげて豊かになって行く時代には、一歩先を行く暮らし方を提案し、私たちの毎日を楽しく変えていきました。日本の高度経済成長のなかで、当時はまだ未開の地という佇まいであった場所に店舗を次々と出し、新時代の「まち」をつくりました。日本初の郊外型ショッピングセンターである玉川高島屋S・Cはそのシンボルで、いまでも日本を代表するオシャレな「まち」として進化しています。その後1996（平成8）年の東京・新宿のタカシマヤタイムズスクエア、2019（平成31）年には日本橋高島屋S・Cと、新しい「まちづくり」を推進。これからもワクワクするショッピングや時間が過ごせる場所を提供し情報を発信し続けていくことでしよう。

（1）グラフィックデザイナー、画家、日本のモダンデザインを呼ばれる。  
（2）漫画家、文筆家。大正・昭和初期の日本の漫画界をリードした。  
（3）百貨店と催物（三）田広告研究。2011（1936）年7月より抄訳。